

令和2年度 WEBアンケート結果

令和3年2月2日

環境省

1. WEBアンケート

- 目的：除去土壌の再生利用に関する現状の関心や認知度等について、全国的なWEBアンケート調査を、平成30年度以降、毎年実施。
- 実施期間：令和2年10月1日～18日
- 対象者：20代～60代の男女
 - ✓ 令和2年度回答者：3997名※（福島県以外：3466名、福島県：531名）
北海道：440名、東北（福島県除く）：432名、関東：445名、中部：432名、近畿：440名、中国：432名 四国：425名、九州・沖縄：420名
- ※令和2年度で3回目となる本WEBアンケートは、令和2年度からの新規回答者の他に、2年連続（平成31年度、令和2年度）回答者、3年連続（平成30年度、平成31年度、令和2年度）回答者を含んでおり、内訳は以下のとおり。
 - ・新規回答者：1666名（福島県以外：1406名、福島県：260名）
 - ・2年連続回答者数：2149名（福島県以外：1949名、福島県：200名）
 - ・3年連続回答者数：182名（福島県以外：111名、福島県：71名）
- ✓ 平成31年度回答者：3600名（福島県以外：3200名、福島県：400名）
北海道：400名、東北（福島県除く）：400名、関東：400名、中部：400名、近畿：400名、中国：400名 四国：400名、九州・沖縄：400名
- 質問事項
 - ✓ 令和2年度、平成31年度継続質問事項
Q1～Q8、10、12、16、17、22
 - ✓ 令和2年度新規質問事項
Q9、11、13～15、18～21

2. WEBアンケート（質問事項一覧）（1/2）

質問番号	質問事項
Q 1	あなたは、除去土壌等が中間貯蔵開始後30年以内に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。
Q 2	あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、何で情報を得ましたか（複数回答）。
Q 3	あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。
Q 4	あなたは、除去土壌の再生利用について、何で情報を得ましたか（複数回答）。
Q 5	あなたは、除去土壌の再生利用について、どの程度関心をお持ちですか。
Q 6	あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。
Q 7	あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。
Q 8	あなたは、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。
Q 9	除去土壌の再生利用を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか（複数回答）。
Q 10	あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施されても良いと思いますか、それともいやだと思いますか。
Q 11	自身のお住いの地域で除去土壌の再生利用が実施される上でどのような条件が整っている必要があると思いますか（複数回答）。
Q 12	あなたは、除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得ることは可能であると思いますか。

2. WEBアンケート（質問事項一覧）（2/2）

質問番号	質問事項
Q13	除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得る上でどのような条件が整っている必要がありますか(複数回答)。
Q14	あなたは、環境省から除去土壌の再生利用に関するメールニュースやツイッター等SNSでの配信がされる場合、読みたいですか。
Q15	あなたは、どのくらいの頻度でSNSを利用していますか。
Q16	除去土壌の再生利用に関する情報の発信源として信頼できると考えられる機関・媒体をお答えください(複数回答)。
Q17	福島県では除去土壌の再生利用の実証事業を行っています。あなたは、その実証事業の場所を見学したいと思いませんか。
Q18	環境省では福島の復興に向けた理解醸成の取組の一つとして、2020年3月から中間貯蔵施設に搬入され分別した土壌を鉢植えに用い、観葉植物を植えて、環境省本省の環境大臣等の部屋に設置することとしました。このことを知っていますか。
Q19	Q18で「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」「聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった」と回答された方に質問です。何で情報を入手しましたか(複数回答)。
Q20	あなたは、自身のお住まいの自治体で再生土壌を使用した鉢植えを展示されても良いと思いませんか、それともいやだと思いませんか。
Q21	除去土壌の再生利用の理解を深めるために、環境省が実施すべきことは何だと思いませんか(複数回答)。
Q22	除去土壌の再生利用に関する以下の内容で特に関心のある事項をお答えください(複数回答)。

3. WEBアンケート（継続質問）

◆ 平成31年度と令和2年度の比較結果概要

- ・ 全体的に、平成31年度と令和2年度で概ね同様の傾向。

◆ 認知度（Q1, Q3）

- ・ 除去土壌等の福島県外での最終処分、除去土壌の再生利用、のいずれも、福島県の方が福島県以外よりも認知度が高い。
- ・ 全地域において、除去土壌等の福島県外での最終処分についての認知度（Q1：福島県50.3%、福島県以外19.2%）に比べて、除去土壌の再生利用の認知度（Q3：福島県37.8%、福島県以外13.5%）の方が低い。

◆ 関心（Q5, Q17）

- ・ 除去土壌の再生利用について、「関心がある」「やや関心がある」との回答は、福島県（46%）の方が、福島県以外（30.2%）に比べて高い。
- ・ 除去土壌の再生利用の実証事業現場の見学に前向きな回答は、全国的に約20%～30%。

◆ 情報入手（Q2, Q4, Q16）

- ・ 情報の入手方法は全地域において、テレビ（民放、NHK）が多い。ただし、福島県ではその地域特有の情報源からの入手が比較的多いのも従前からの特徴。
- ・ 信頼できると考える情報源から情報入手している傾向が見られるが、「環境省」については、情報源の信頼度の高さに比べると情報入手手段としている回答は多くない。

◆ 除去土壌の再生利用に関する考え（Q6～8, Q10, Q12）

- ・ いずれの質問についても、「どちらともいえない」との回答の割合が高い。

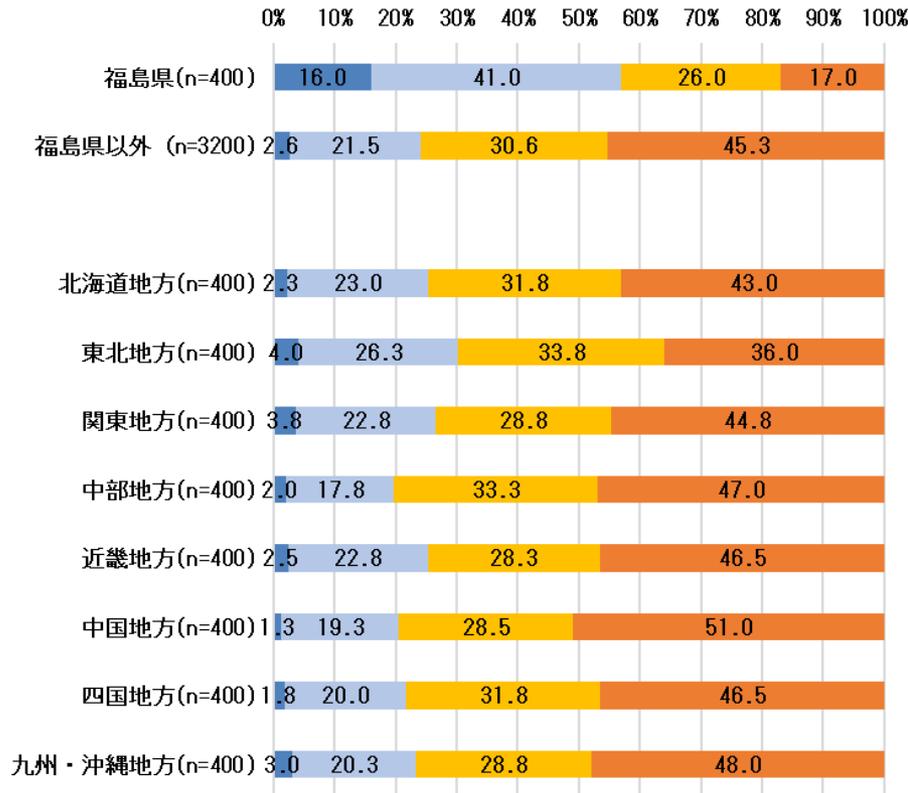
◆ 除去土壌の再生利用の関心項目（Q22）

- ・ 全地域において、減容・再生利用の安全性の関心度は高い。

Q1：あなたは、除去土壌等が中間貯蔵開始後30年以内に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。

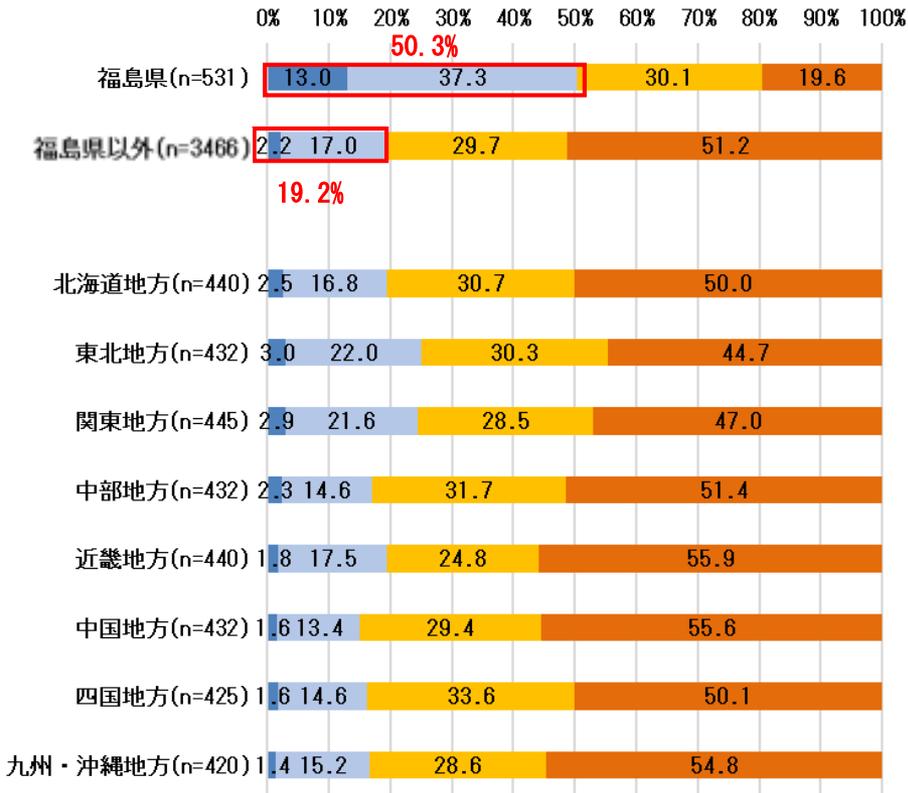
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・福島県では「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」との回答は50%以上であり、他の地域に比べて高い。
- ・福島県以外では、「聞いたことがなかった」との回答は、50%前後である。

【平成31年度】



- 内容をよく知っていた
- 聞いたことがあり、内容も少し知っていた
- 聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった
- 聞いたことがなかった

【令和2年度】

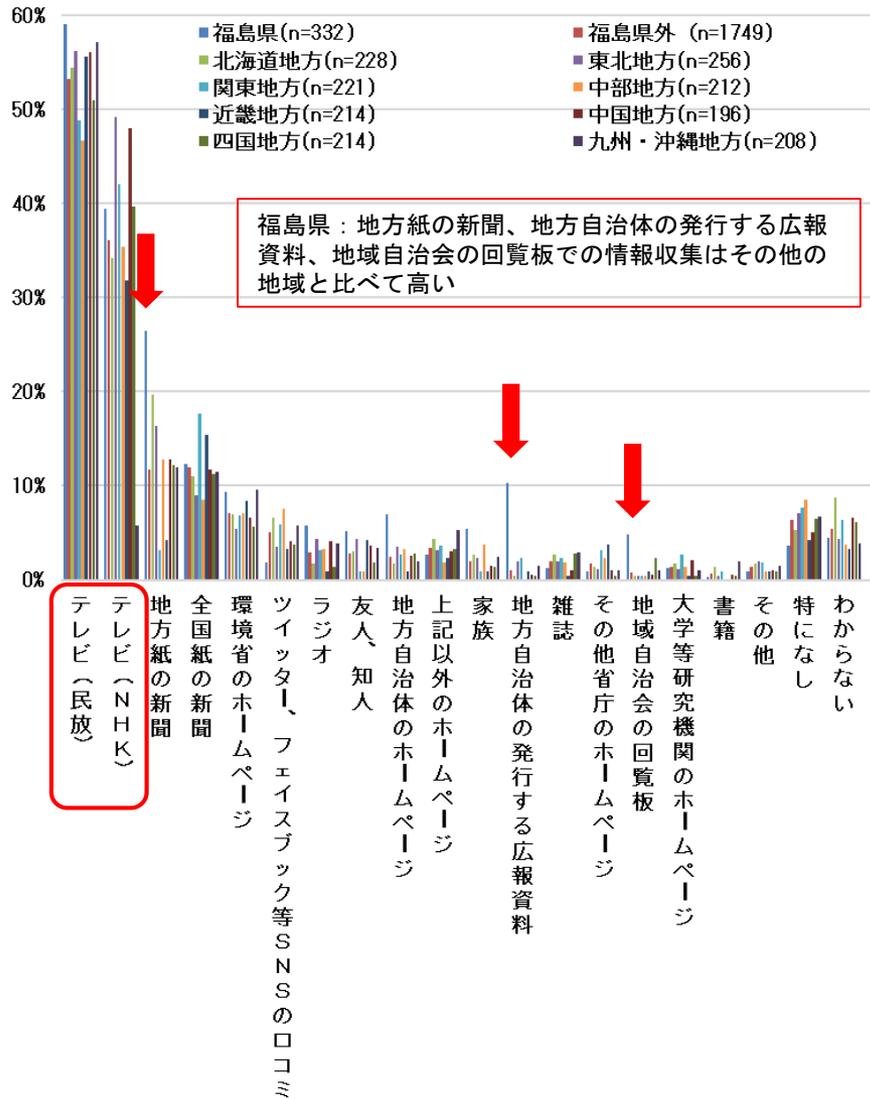


- 内容をよく知っていた
- 聞いたことがあり、内容も少し知っていた
- 聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった
- 聞いたことがなかった

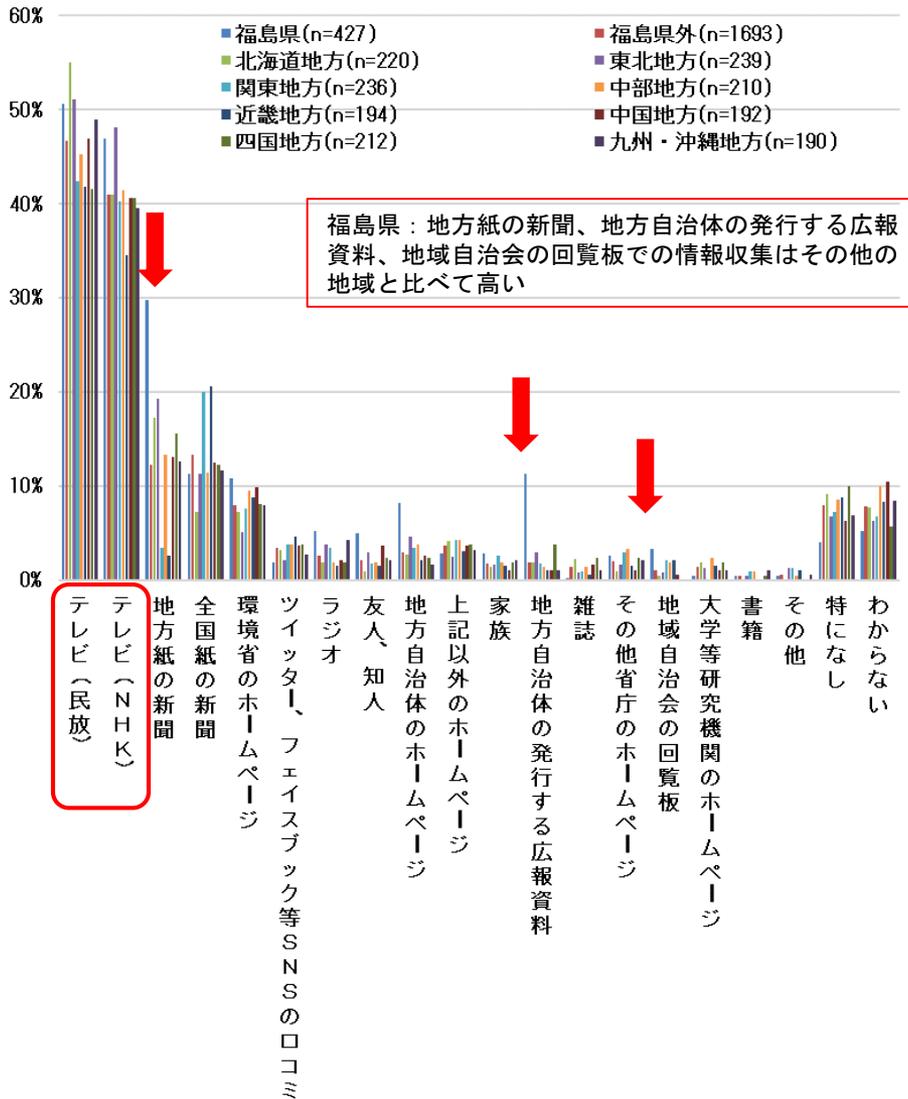
Q2：あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、何で情報を得ましたか（複数回答）。

- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・情報の入手方法は、全地域においてテレビ（民放・NHK）が多く、福島県ではその地域特有の情報源からの入手も比較的多い。

【平成31年度】



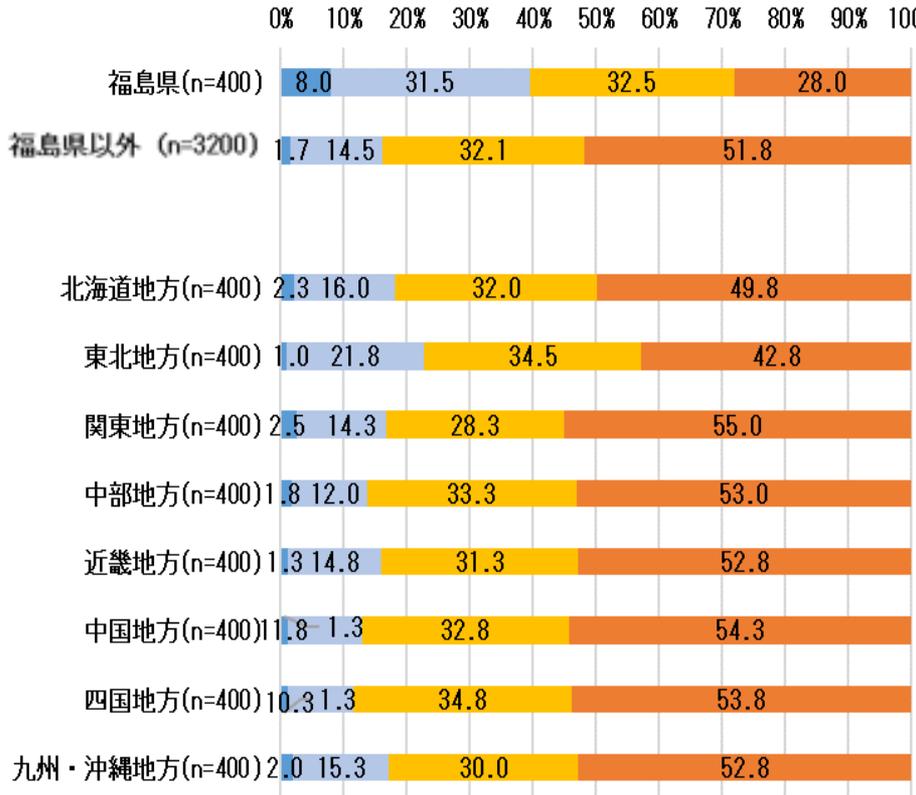
【令和2年度】



Q3：あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。

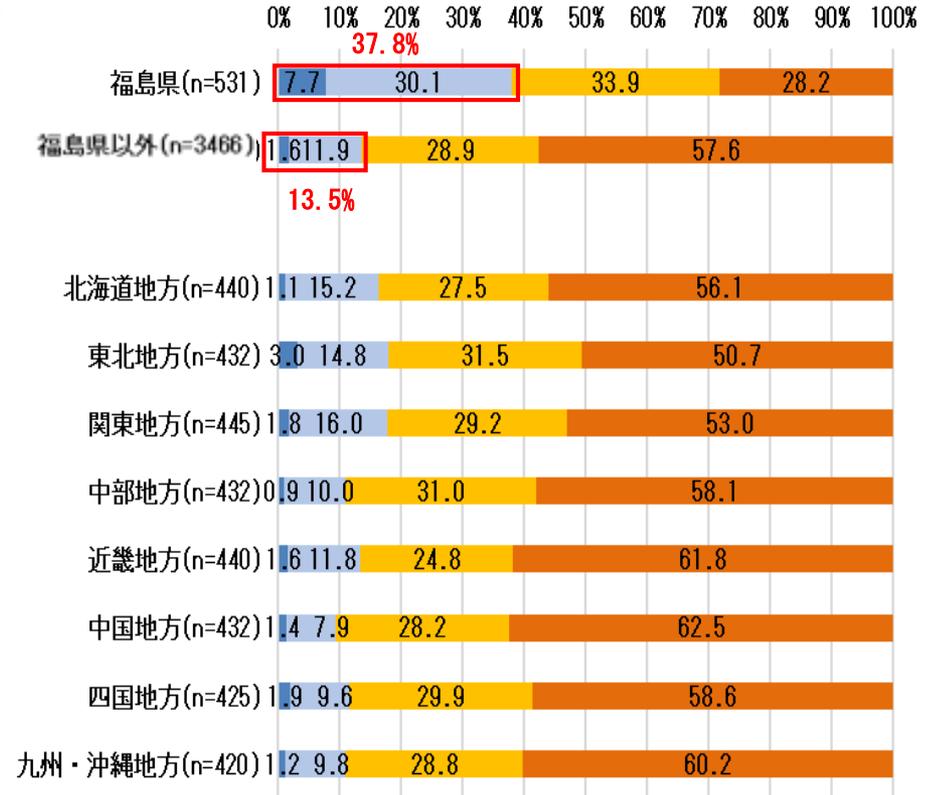
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・全地域において、除去土壌等の福島県外での最終処分についての認知度（Q1(P6)）よりも低い傾向が見られる。

【平成31年度】



- 内容をよく知っていた
- 聞いたことがあり、内容も少し知っていた
- 聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった
- 聞いたことがなかった

【令和2年度】

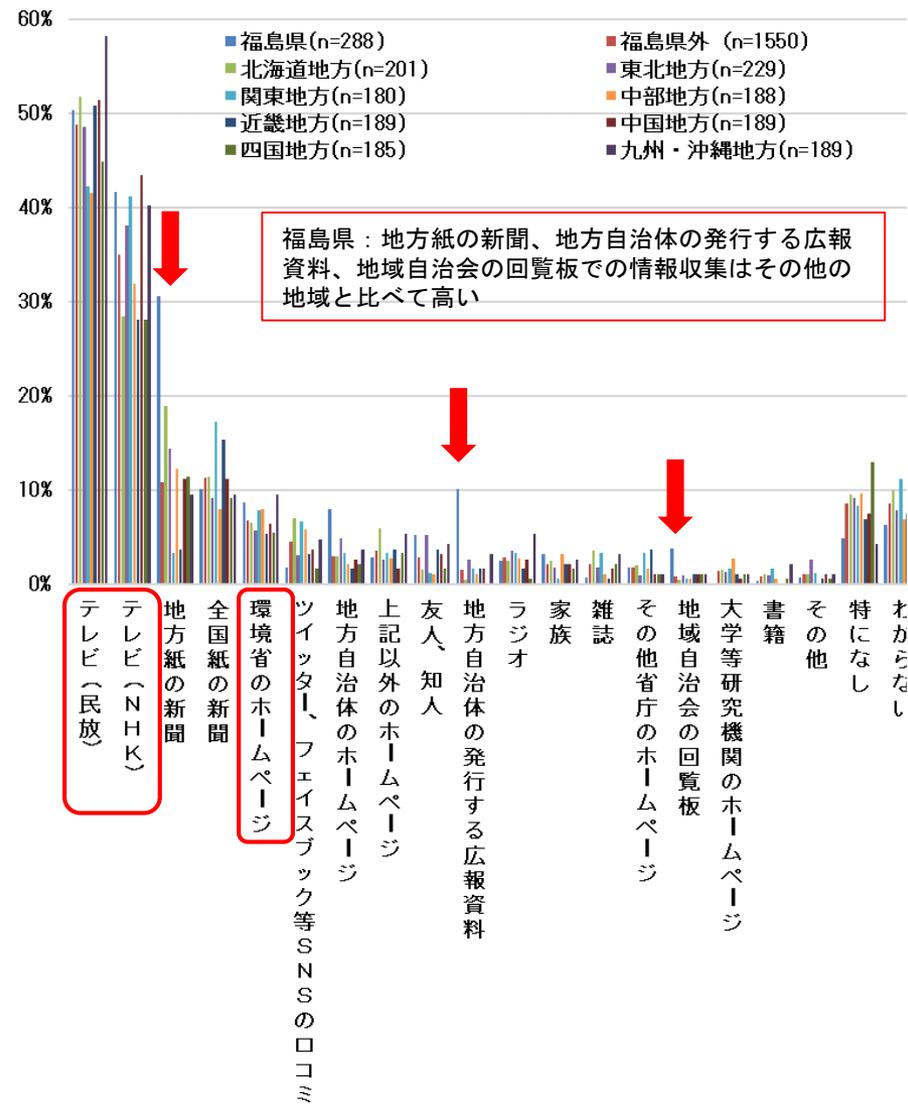


- 内容をよく知っていた
- 聞いたことがあり、内容も少し知っていた
- 聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった
- 聞いたことがなかった

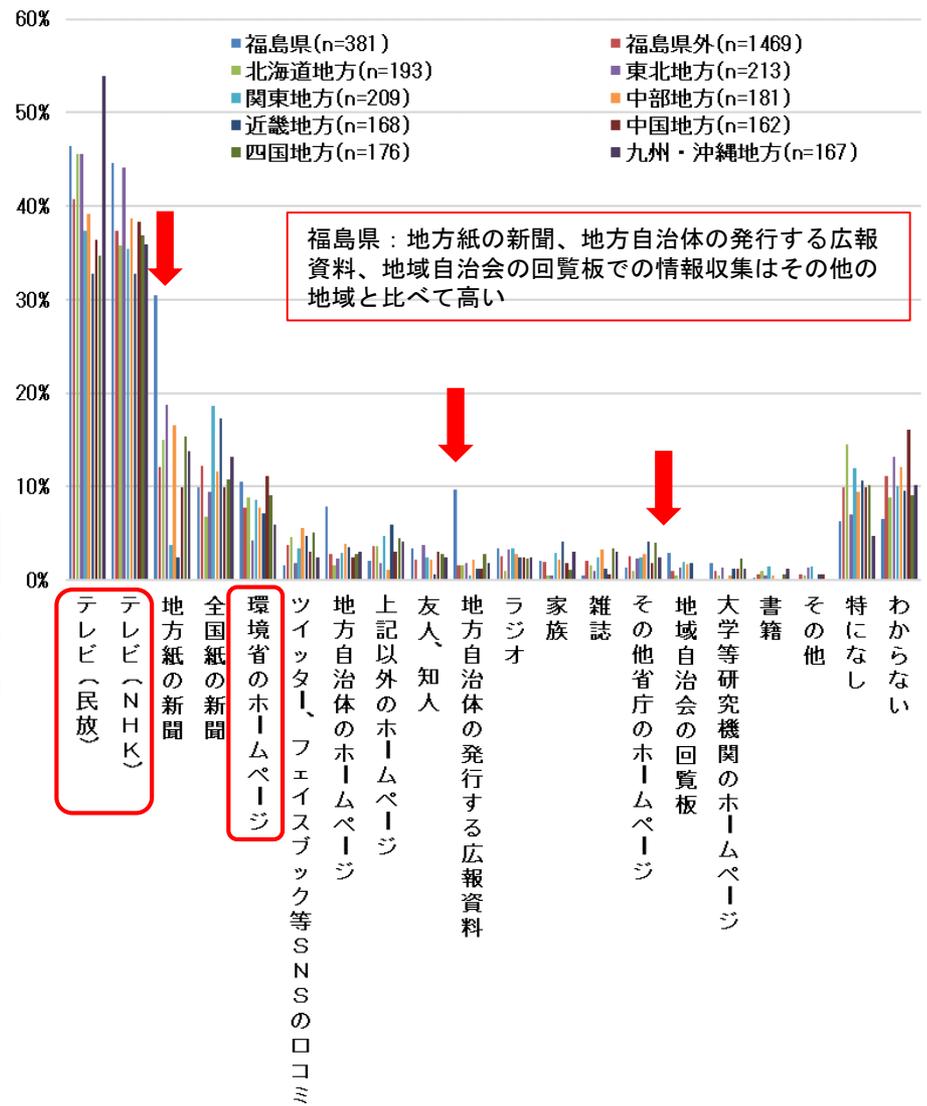
Q4：あなたは、除去土壌の再生利用について、何で情報を得ましたか（複数回答）。

- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・情報の入手方法は、全地域においてテレビ（民放・NHK）が多く、福島県ではその地域特有の情報源からの入手も比較的多い。

【平成31年度】



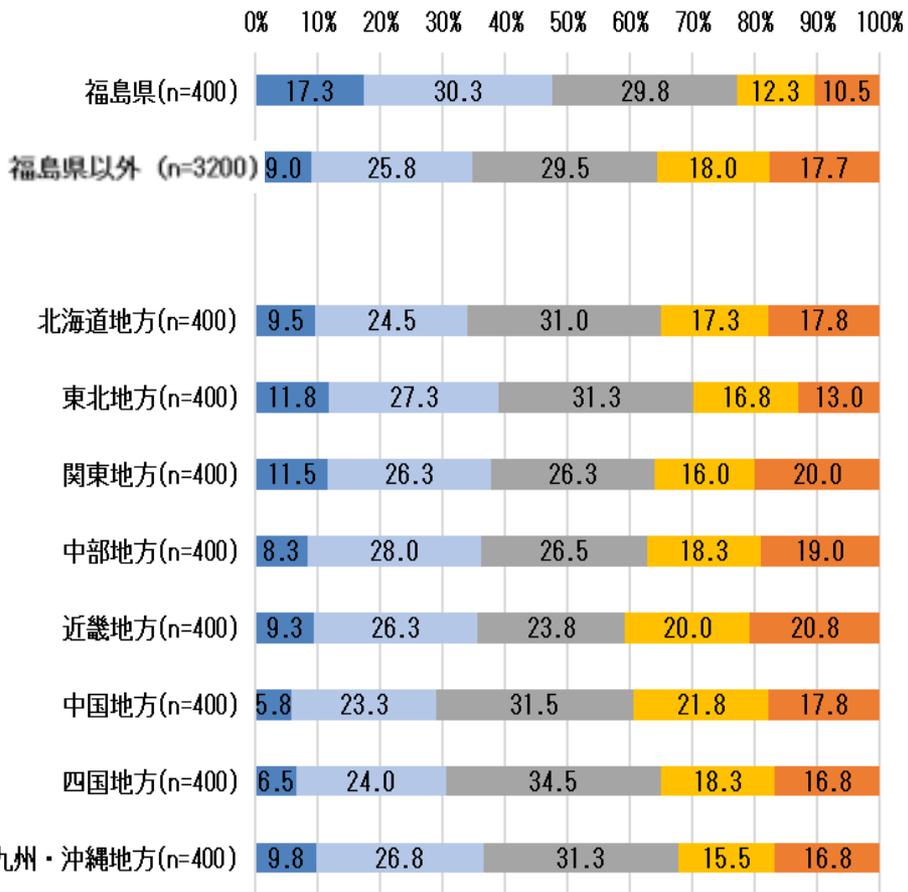
【令和2年度】



Q5：あなたは、除去土壌の再生利用について、どの程度関心をお持ちですか。

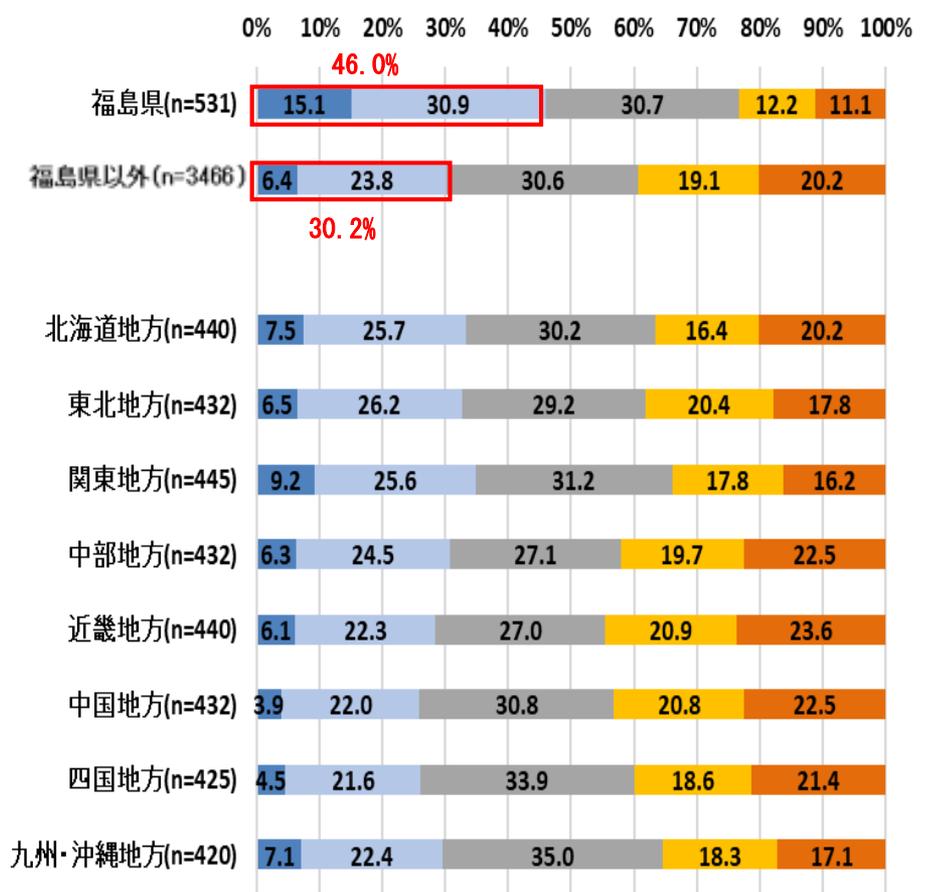
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・福島県では「関心がある」「やや関心がある」との回答は46%であり、他の地域に比べて高い。

【平成31年度】



■ 関心がある ■ やや関心がある ■ どちらともいえない
 ■ あまり関心がない ■ 関心がない

【令和2年度】

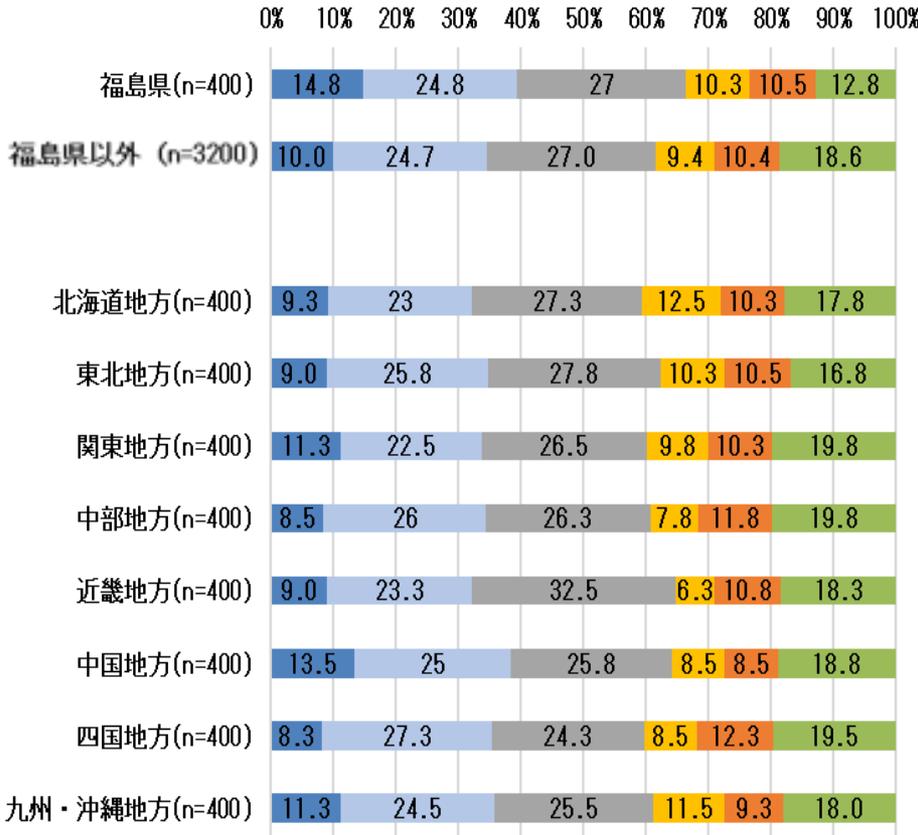


■ 関心がある ■ やや関心がある ■ どちらともいえない
 ■ あまり関心がない ■ 関心がない

Q6：あなたは、除去土壌の再生利用する必要があると思いますか。

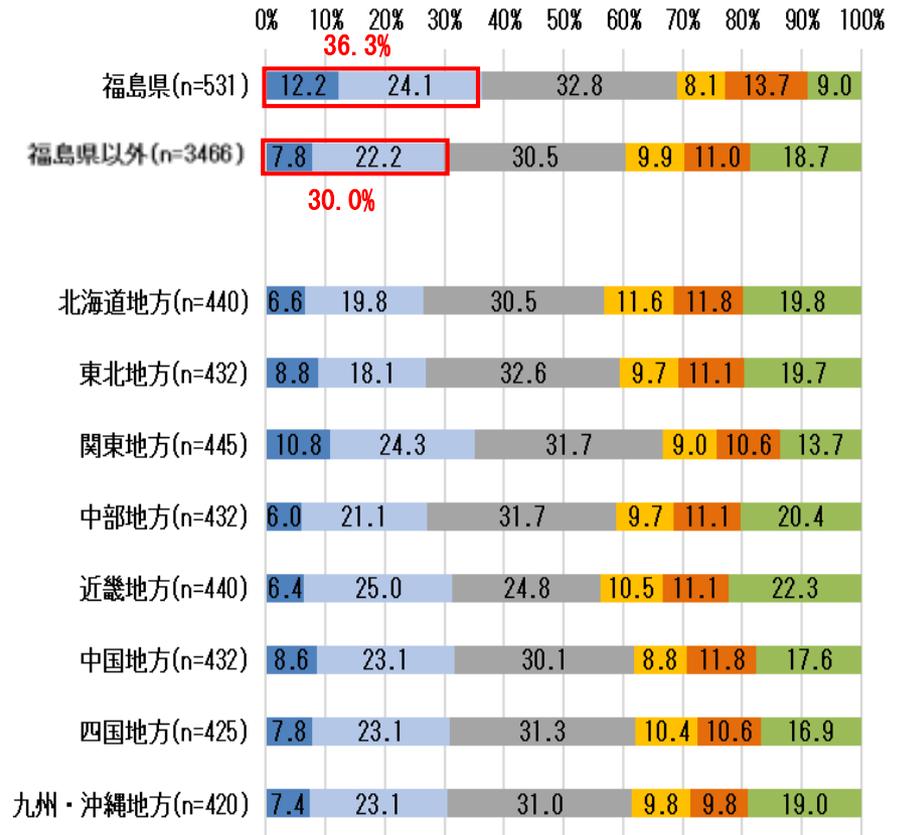
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・地域別での傾向の大きな差は見られない。

【平成31年度】



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない

【令和2年度】

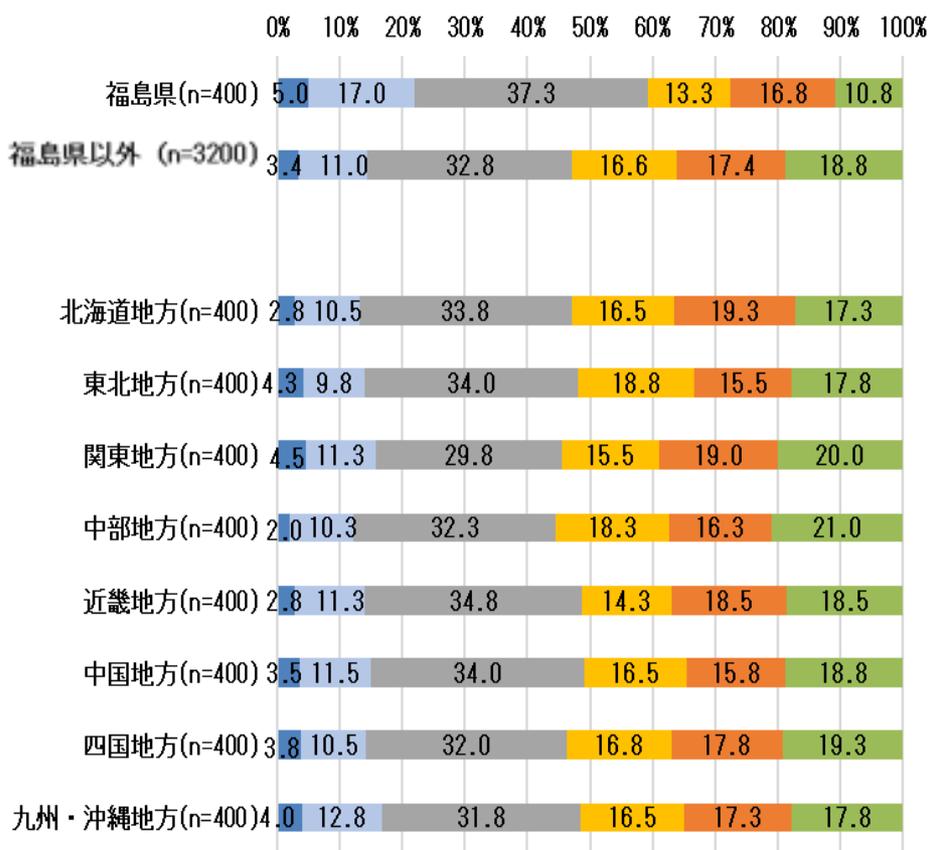


- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない

Q7：あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。

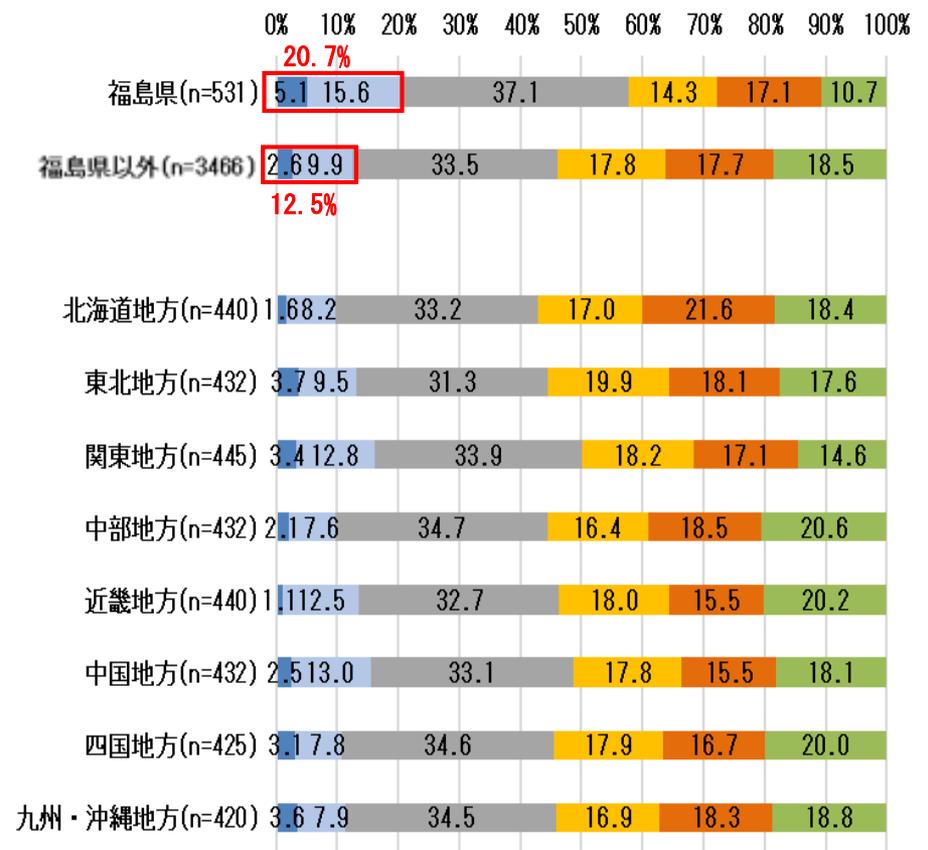
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・安全と考える回答の割合は高いとは言えないが、「どちらともいえない」との回答は、全地域において30%代である。
- ・地域別での傾向の大きな差は見られない。

【平成31年度】



- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない

【令和2年度】

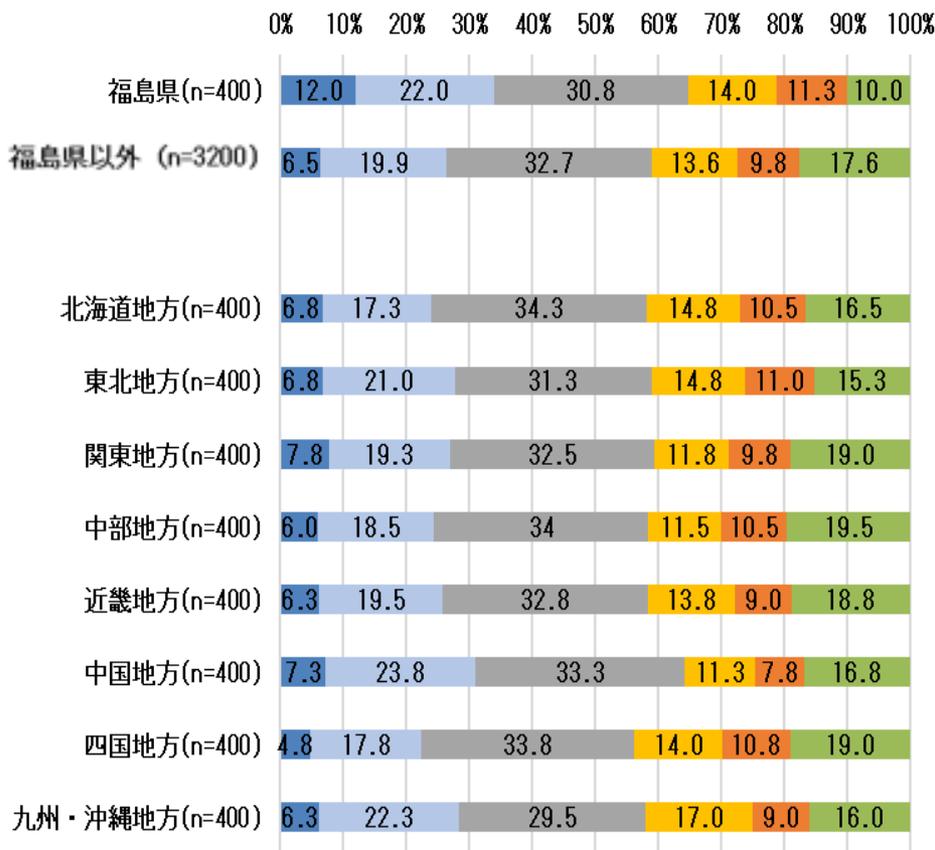


- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない

Q8：あなたは、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。

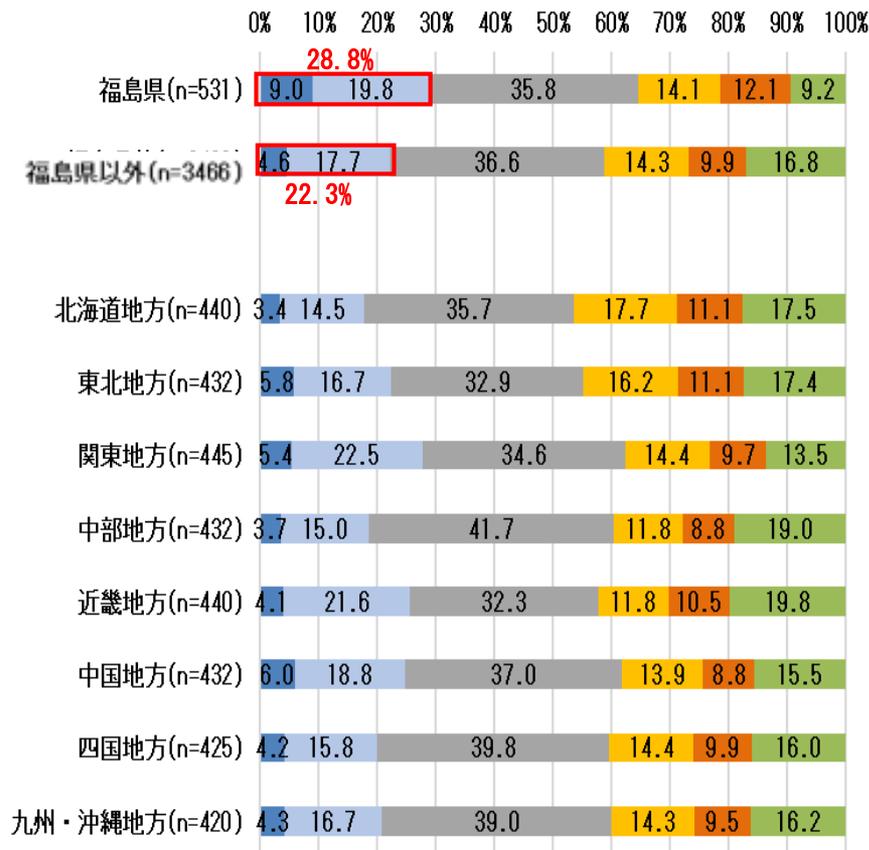
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・賛成とする回答の割合は高いとは言えないが、「どちらともいえない」との回答は、全地域において40%前後である。
- ・地域別での傾向の大きな差は見られない。

【平成31年度】



- 賛成である
- どちらともいえない
- 反対である
- どちらかといえば賛成である
- どちらかといえば反対である
- わからない

【令和2年度】

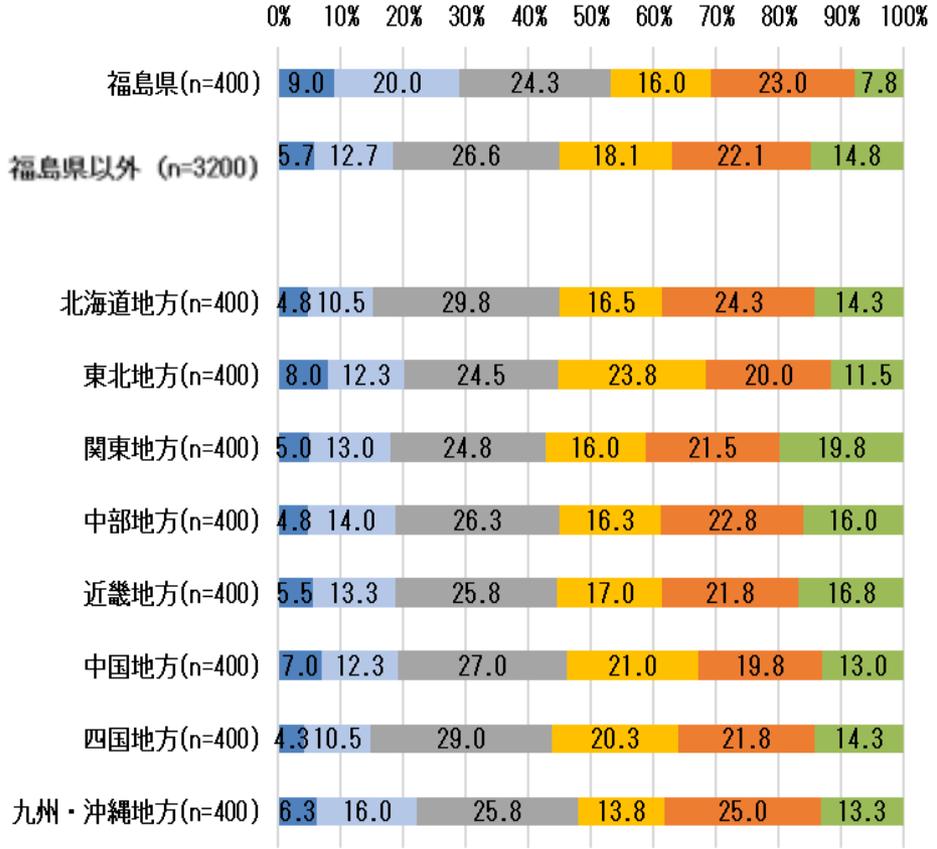


- 賛成である
- どちらともいえない
- 反対である
- どちらかといえば賛成である
- どちらかといえば反対である
- わからない

Q10：あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施されても良いと思いますか、それともいやだと思いますか。

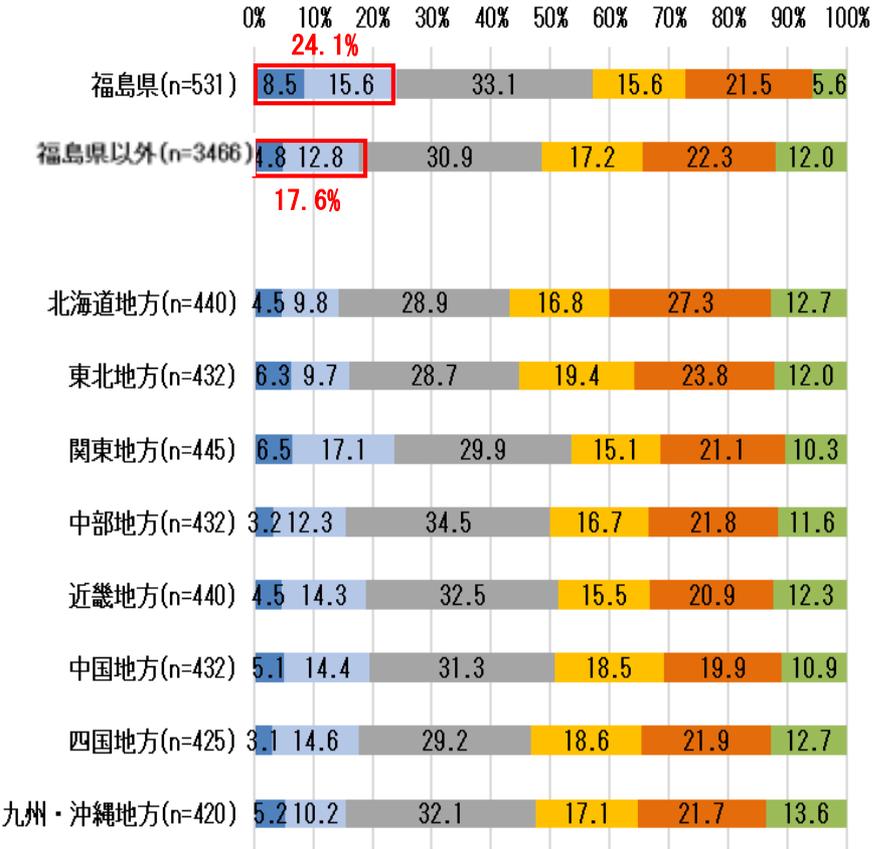
- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・良いと考える回答の割合は昨年度同様に高いとは言えないが、「どちらともいえない」との回答は、全地域において30%前後である。
- ・地域別での傾向の大きな差は見られない。

【平成31年度】



- 良いと思う
- どちらともいえない
- いやだと思う
- どちらかといえば良いと思う
- どちらかといえばいやだと思う
- わからない

【令和2年度】

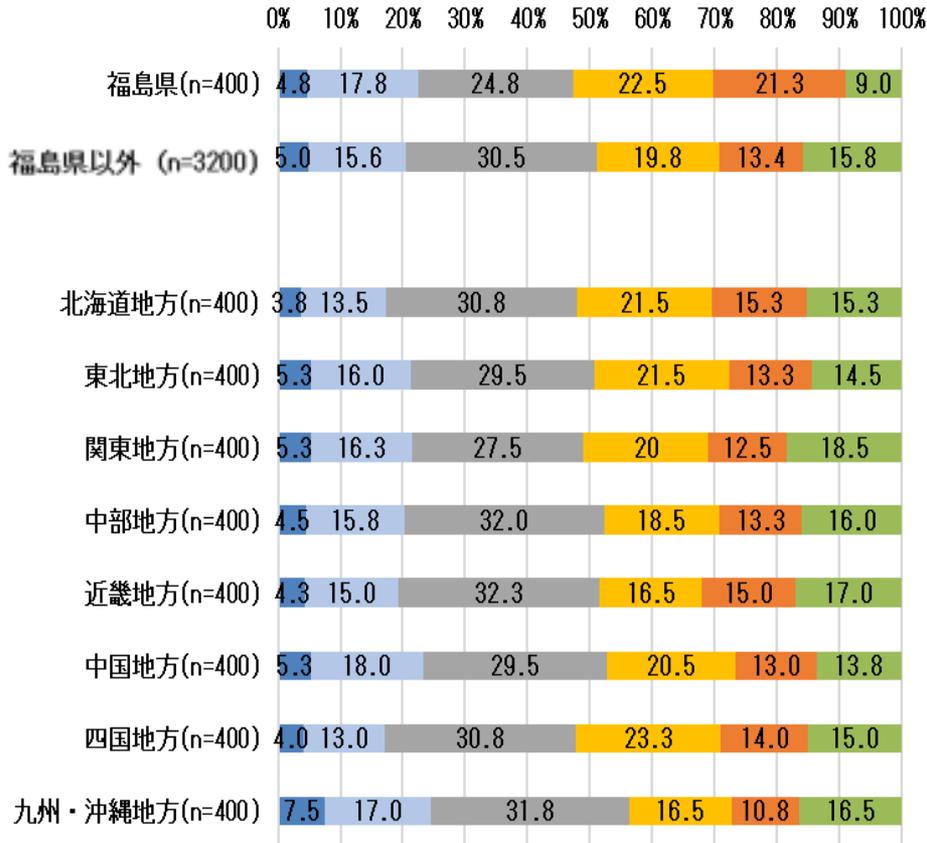


- 良いと思う
- どちらともいえない
- いやだと思う
- どちらかといえば良いと思う
- どちらかといえばいやだと思う
- わからない

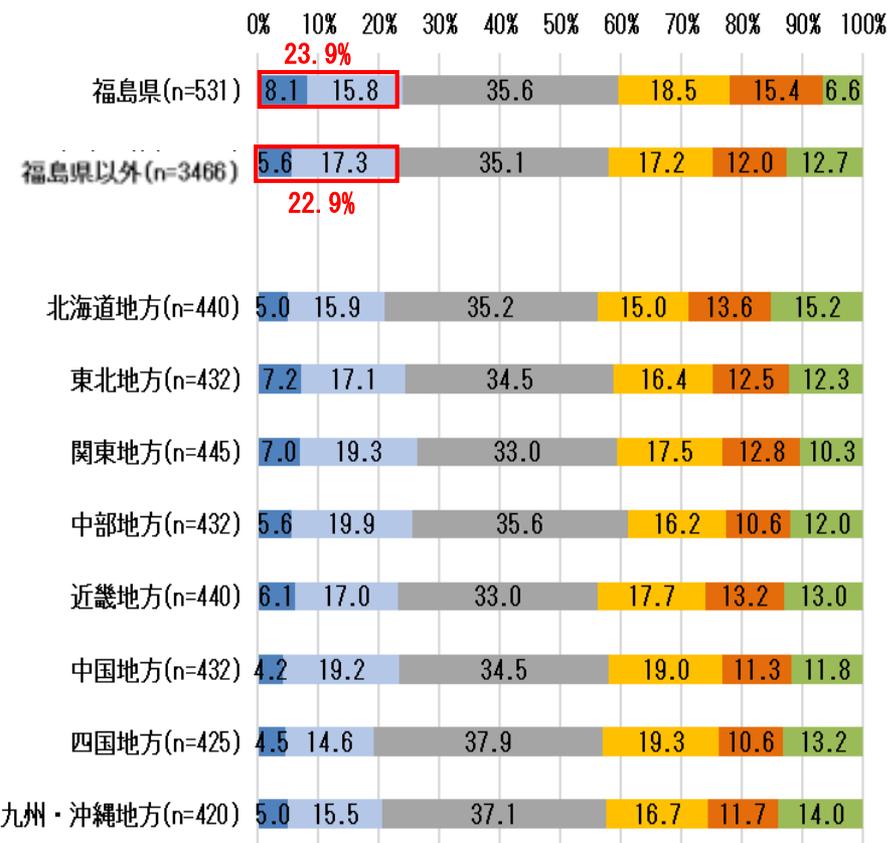
Q 1 2 : あなたは、除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得ることは可能であると思いますか。

- ・概ね、昨年度と同様の傾向である。
- ・そう思うと考える回答の割合は昨年度同様に高いとは言えないが、今年度は「どちらともいえない」との回答は、全地域において約35%である。
- ・地域別での傾向の大きな差は見られない。

【平成31年度】



【令和2年度】

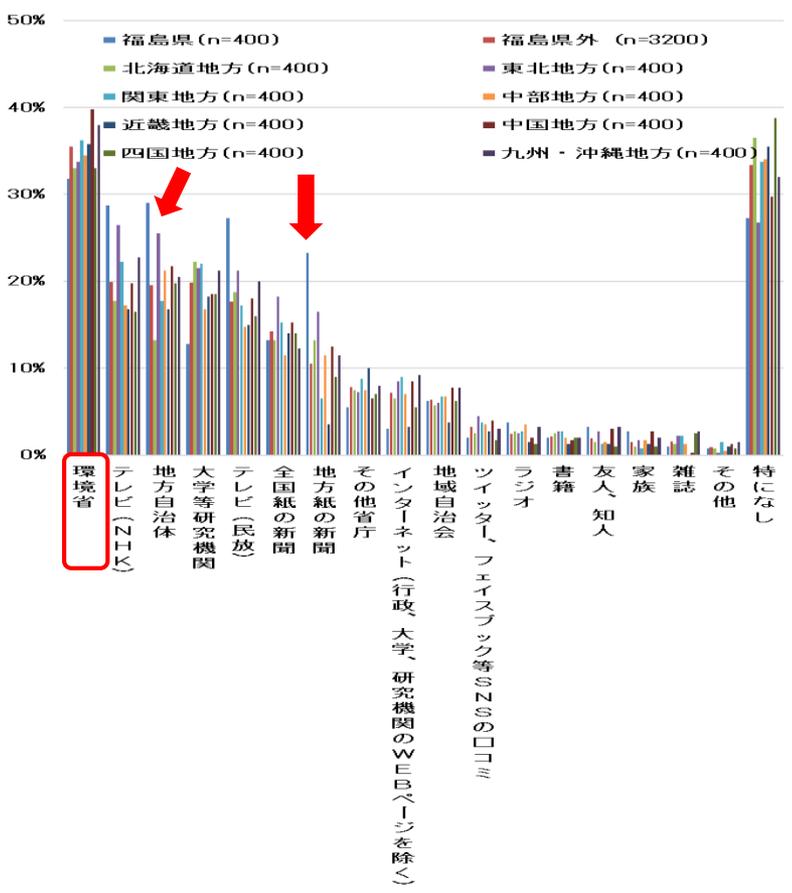


- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない

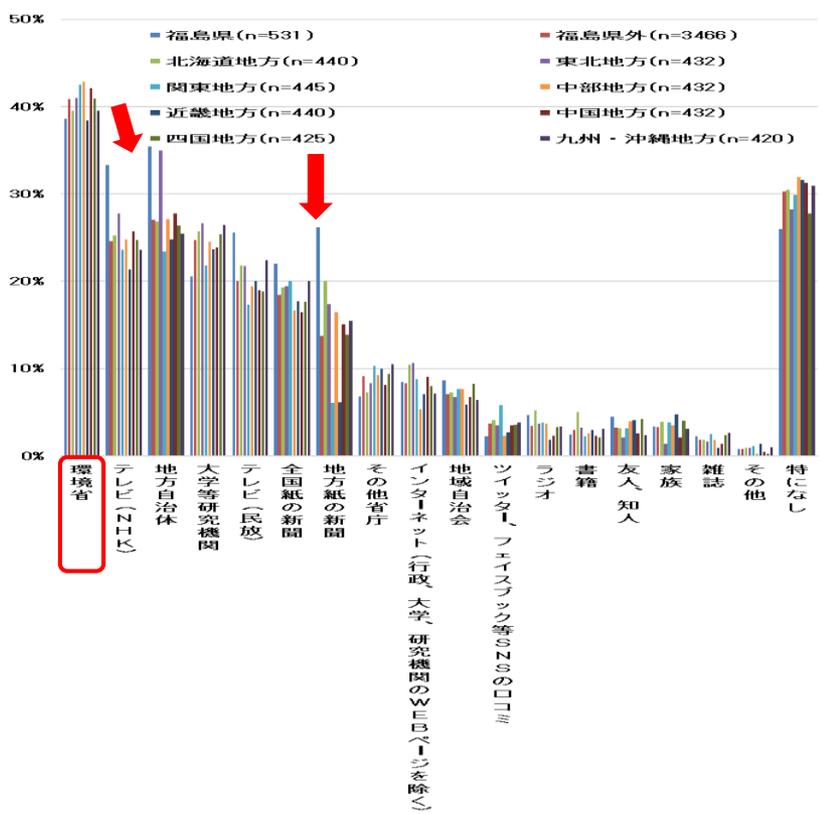
Q16：除去土壌の再生利用に関する情報の発信源として信頼できると考えられる機関・媒体をお答えください（複数回答）。

- ・全国で「環境省」は信頼度が高い他、福島県及び東北地方では「地方自治体」が他の地域と比べて高い。さらに、福島県では「地方紙の新聞」も信頼度が高い傾向が見られる。
- ・除去土壌の再生利用の情報入手方法（Q4(P9)）と比較すると、概ね、信頼できると考える情報源から情報入手している傾向が見られるが、「環境省」については、情報源としての信頼度の高さに比べると情報入手手段としている回答は多くない。

【平成31年度】



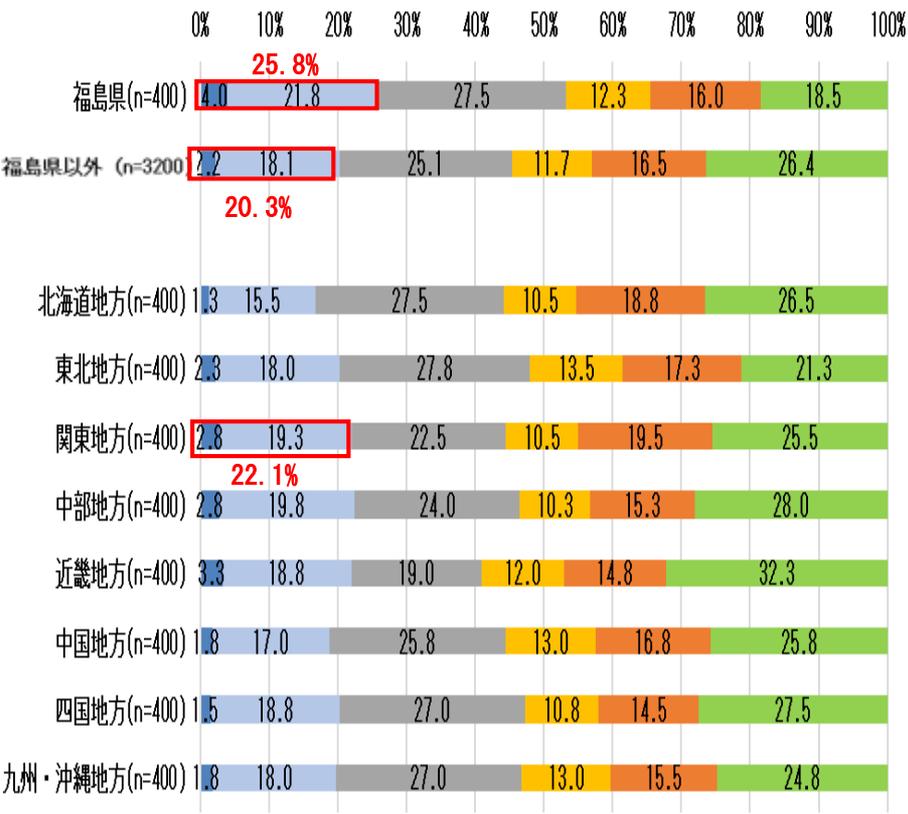
【令和2年度】



Q 17 : 福島県では除去土壌の再生利用の実証事業を行っています。あなたは、その実証事業の場所を見学したいと思いませんか。

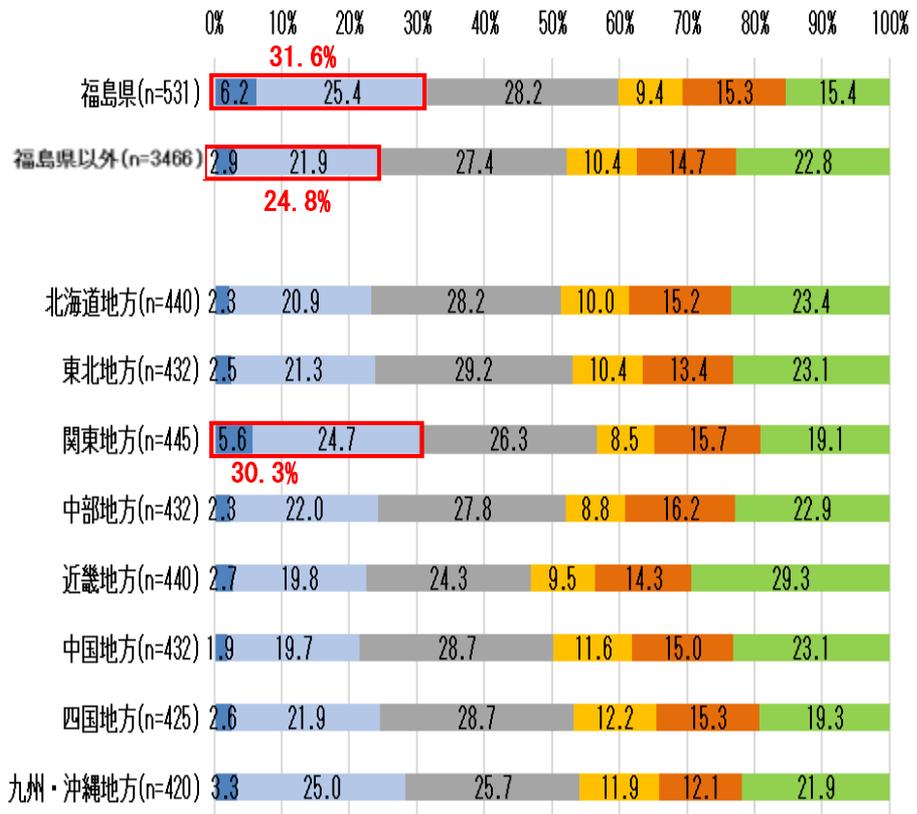
・「是非見学したい」「見学する機会があれば行ってみたい」との回答は、20%~30%前後である。
 ・福島県では「是非見学したい」との回答の割合は、他の地域に比べて高い。今年度については、その他の地域では、関東が同様に高い。

【平成31年度】



- 是非見学したい
- 見学する機会があれば行ってみたい
- どちらともいえない
- どちらかといえば見学したくない
- 見学したくない
- 関心がない

【令和2年度】

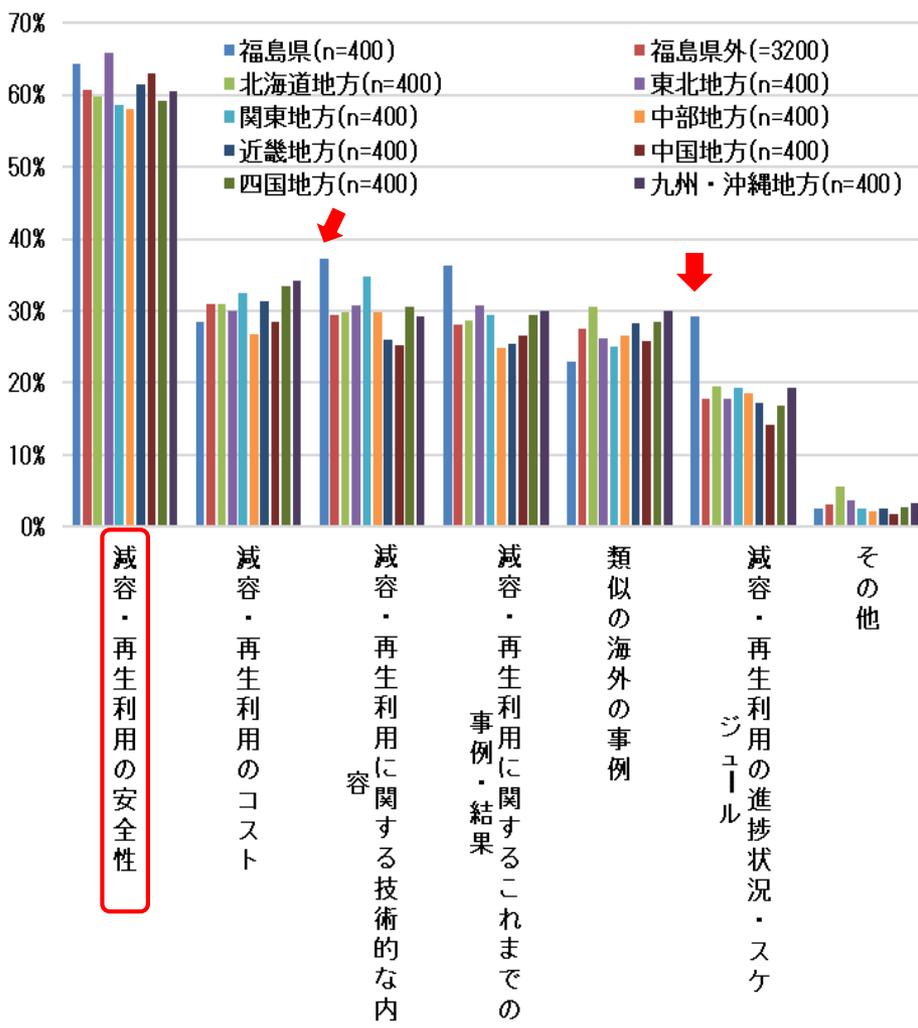


- 是非見学したい
- 見学する機会があれば行ってみたい
- どちらともいえない
- どちらかといえば見学したくない
- 見学したくない
- 関心がない

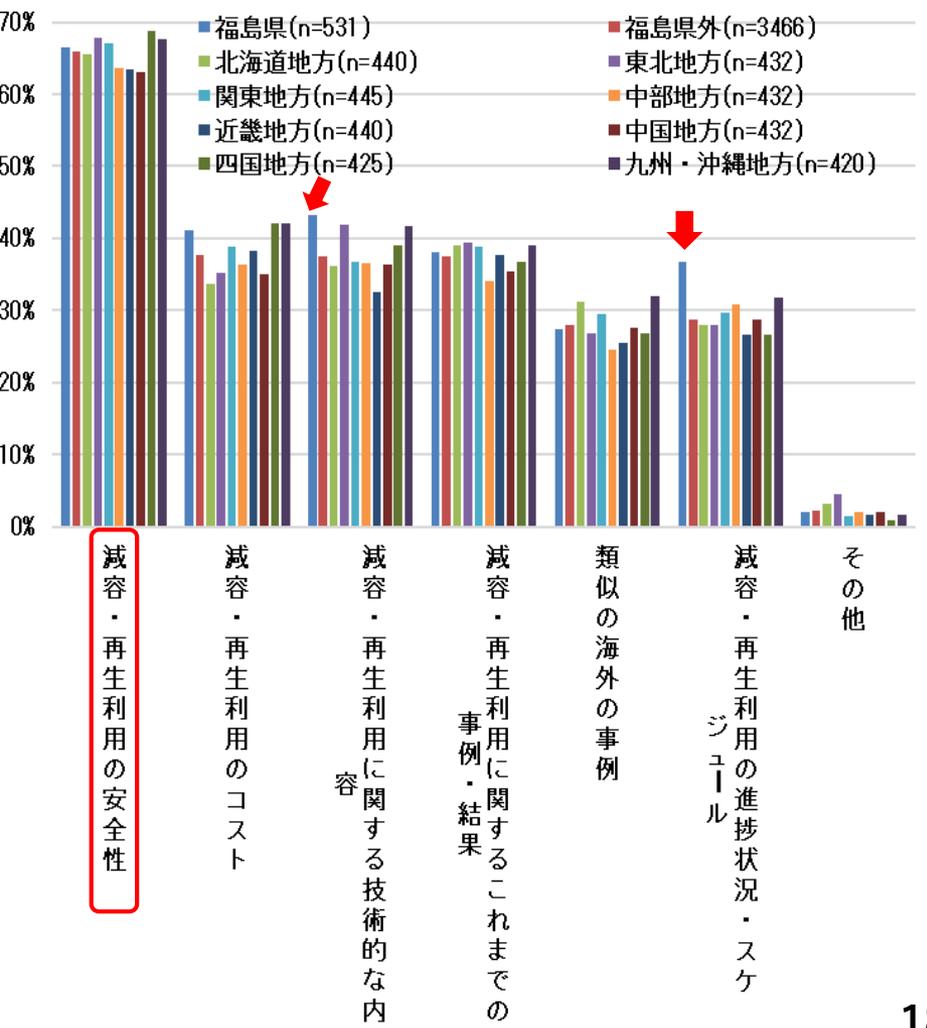
Q 2 2 : 除去土壌の再生利用に関する以下の内容で特に関心のある事項をお答えください（複数回答）。

- ・ 昨年度と同様に「減容・再生利用の安全性」が関心が高い。
- ・ 福島県では「スケジュール」や「技術的な内容」等について、他の地域と比べて関心が高い。

【平成31年度】



【令和2年度】



2. WEBアンケート（新規質問）

◆再生利用を進めるための条件等（Q9, Q11, Q13）

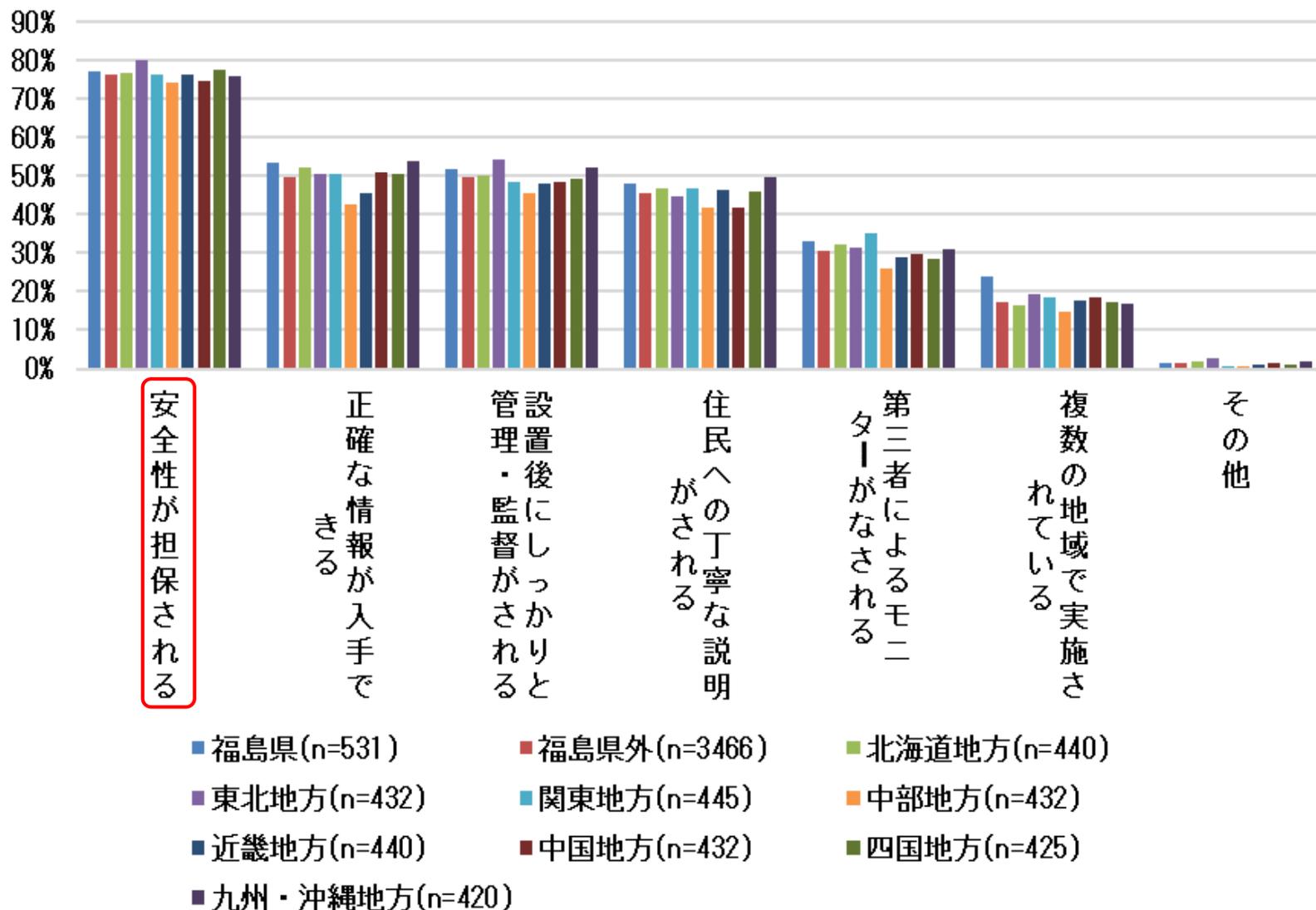
- ・「安全性の担保」を第一に、「情報公開」、「再生利用の必要性の十分な説明」を求める回答の割合が高い。

◆再生利用の理解醸成等（Q18～Q21）

- ・再生利用の理解を深めるために環境省が実施すべきこととして、全地域において、「マスコミへの情報公開」の回答の割合が最も高い。また、「実証事業の公開見学」、「テレビCM」、「公開イベント」、「環境省HPの充実」が比較的多い。
- ・再生利用の理解醸成活動の一環である、福島県内除去土壌の環境省本省室内での利用について、何等か聞いたことがある回答者の情報源としては、全地域において、テレビNHK・民放）が多い。また環境省（HP、広報資料、環境大臣ブログ）からの情報入手もなされている。

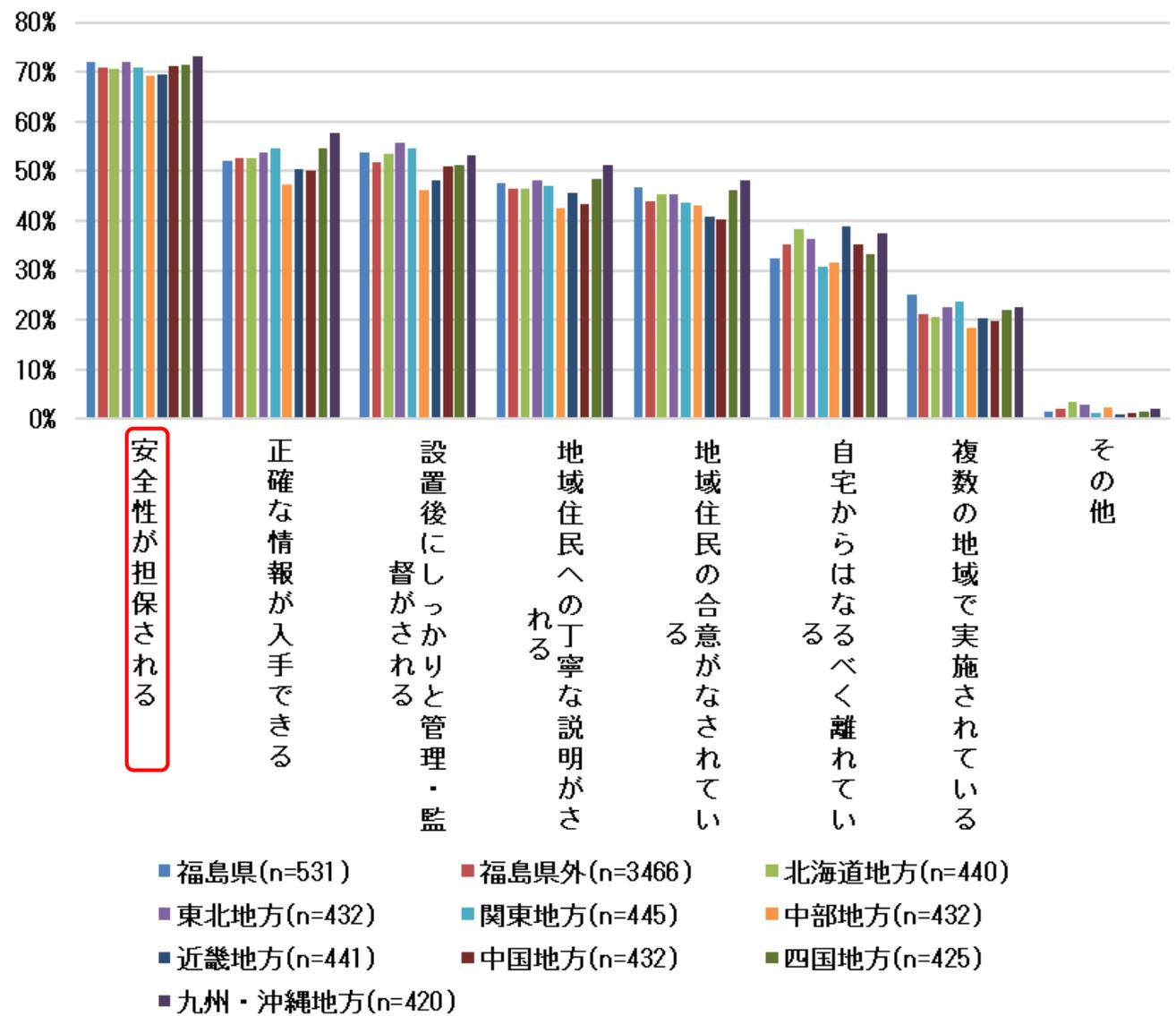
Q9（新規）：除去土壌の再生利用を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか（複数回答）。

・全地域において、「安全性が担保される」の回答の割合が最も高く、地域別の傾向は見られない。



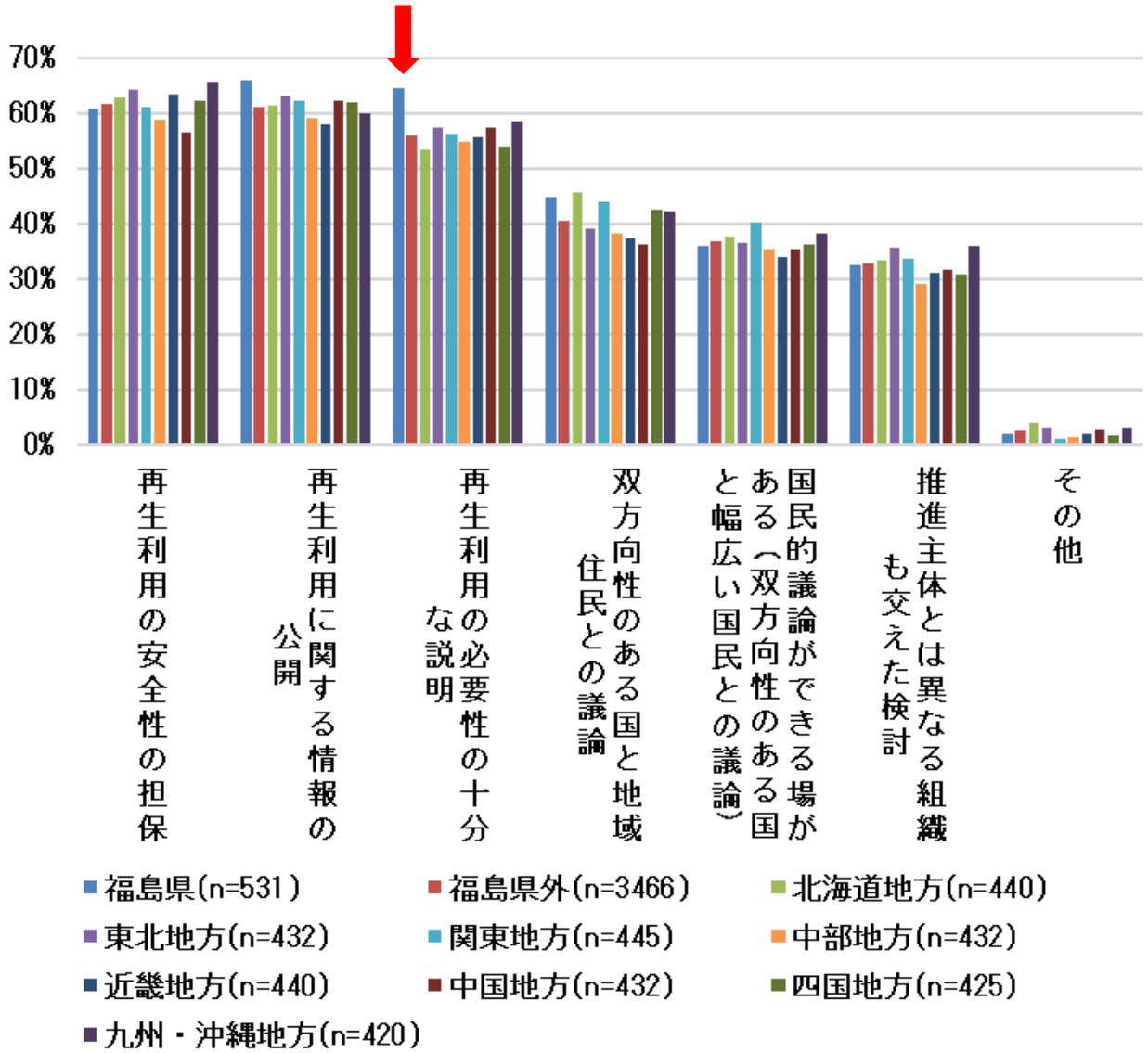
Q 1 1 (新規) : 自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施される上でどのような条件が整っている必要がありますか (複数回答)。

・全地域において、「安全性が担保される」の回答の割合が最も高く、地域別の傾向は見られない。



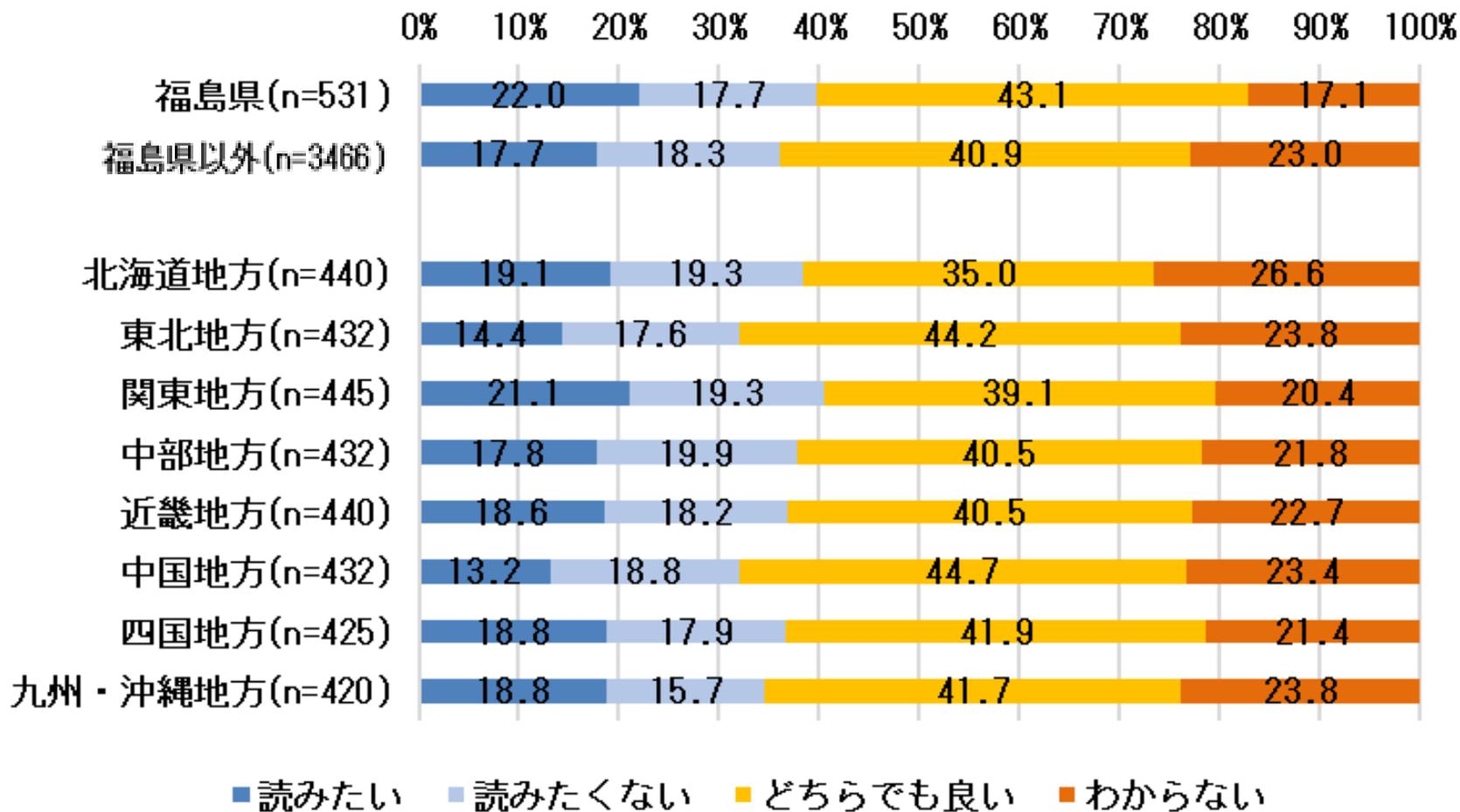
Q 1 3 (新規) : 除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得る上でどのような条件が整っている必要がありますか (複数回答)。

・福島県では、他の地域に比べて「再生利用の必要性の十分な説明」の回答の割合が高い。



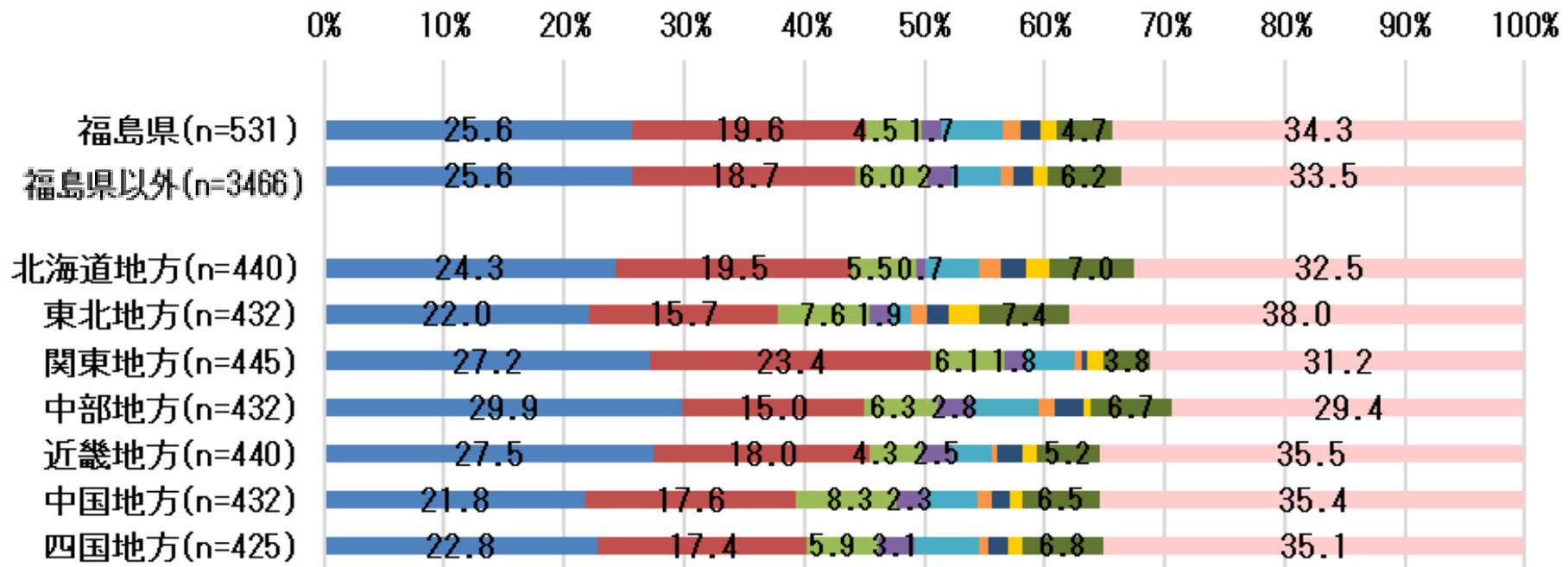
Q14（新規）：あなたは、環境省から除去土壌の再生利用に関するメールニュースやツイッター等SNSでの配信がされる場合、読みたいですか。

・大きな地域差は見られず、「読みたい」との回答は、概ね20%前後である。



Q15 (新規) : あなたは、どのくらいの頻度でSNSを利用していますか。

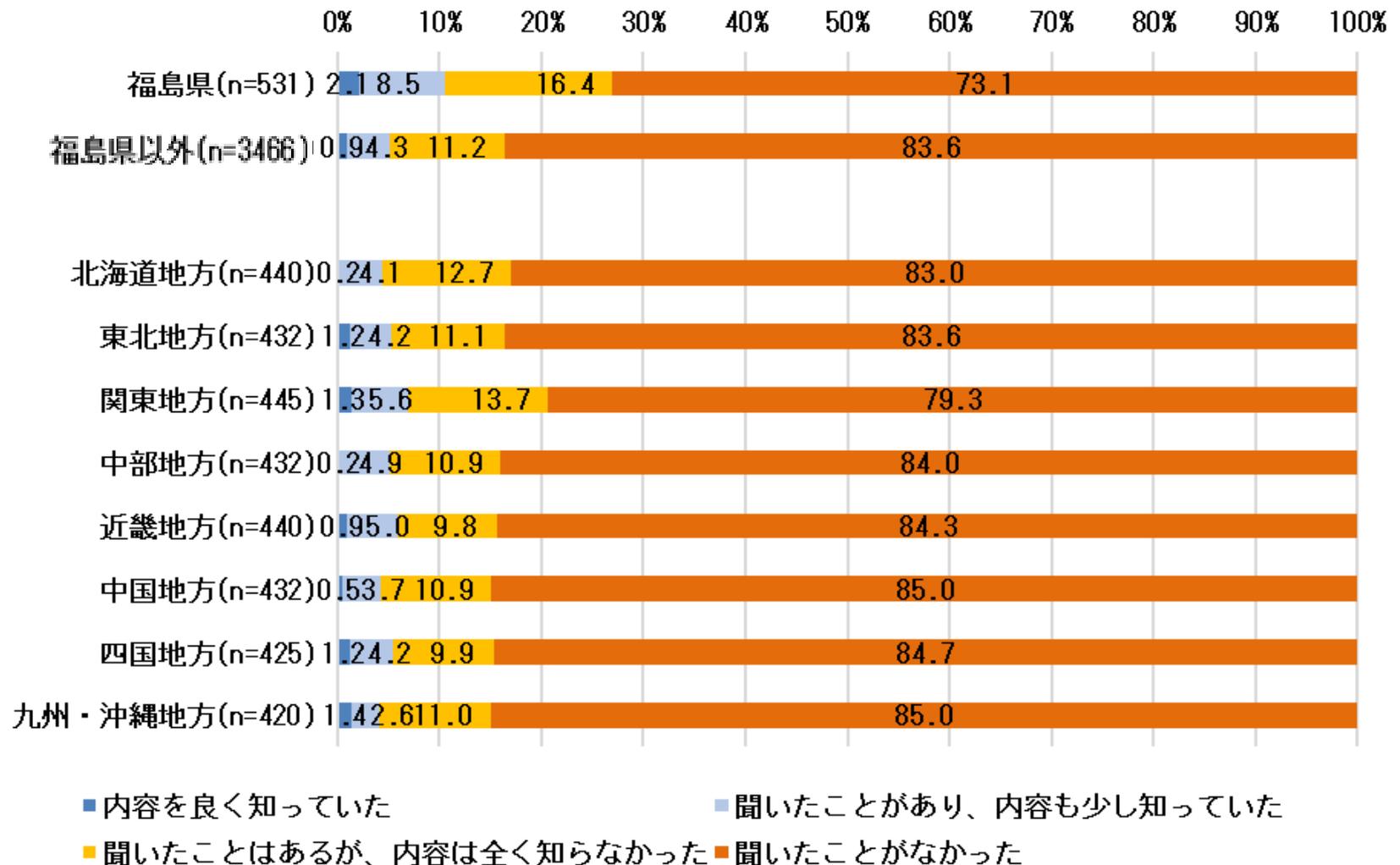
・全地域において、約40%の回答者が1日にSNSを利用している。一方で、SNSに登録していない回答者は約35%である。



- 1日1回程度
- 2~3日に1回程度
- 1週間に1回程度
- 月1回程度
- 登録はしているが、全く利用していない
- 1日2回以上
- 4~5日に1回程度
- 2~3週間に1回程度
- 年に数回程度
- 登録していない

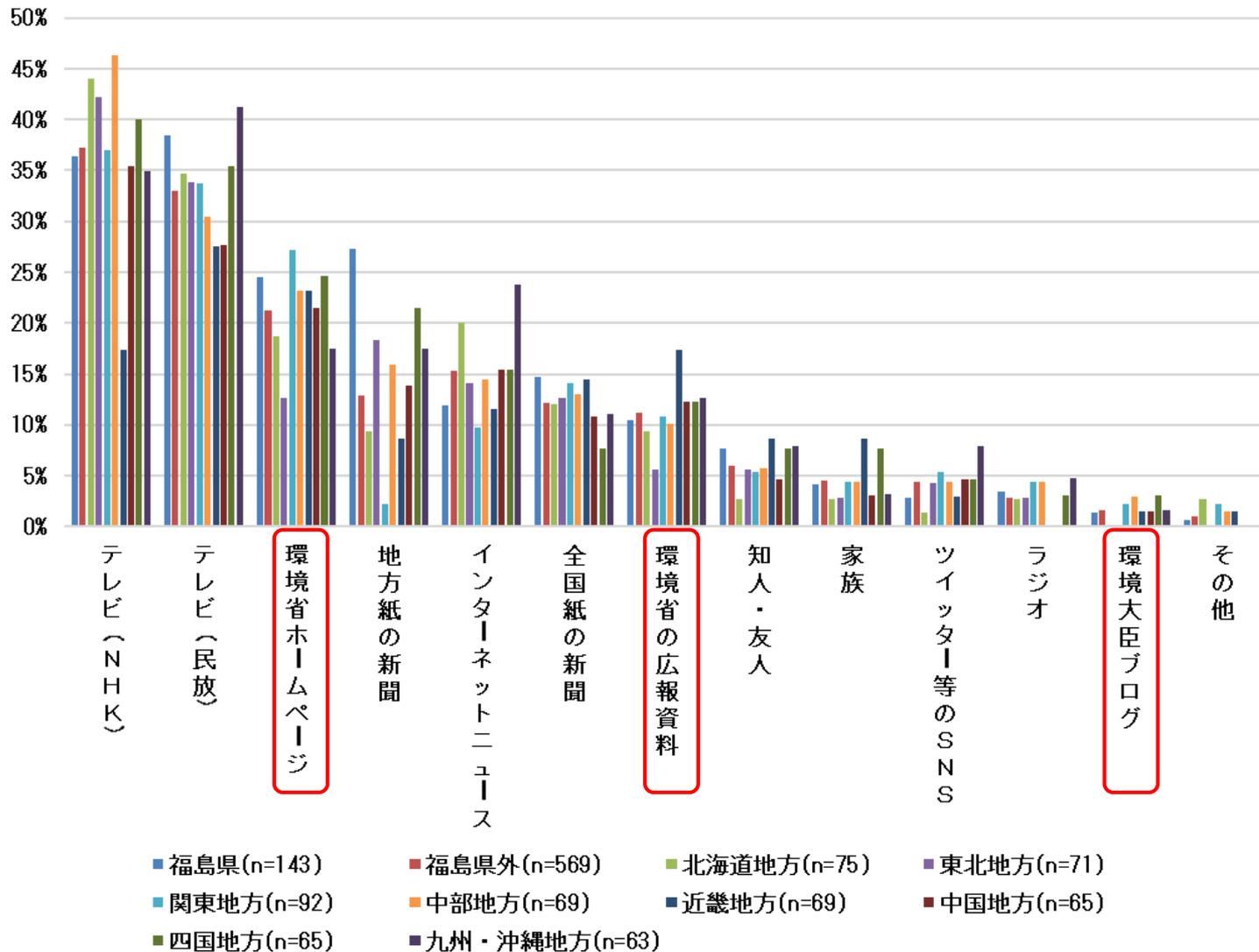
Q18（新規）：環境省では福島県の復興に向けた理解醸成の取組の一つとして、2020年3月から中間貯蔵施設に搬入され分別した土壌を鉢植えに用い、観葉植物を植えて、環境省本省の環境大臣室等の部屋に設置することとしました。このことを知っていますか。

・全地域において同様の傾向であり、「内容を良く知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」との回答は、数%~10%前後である。



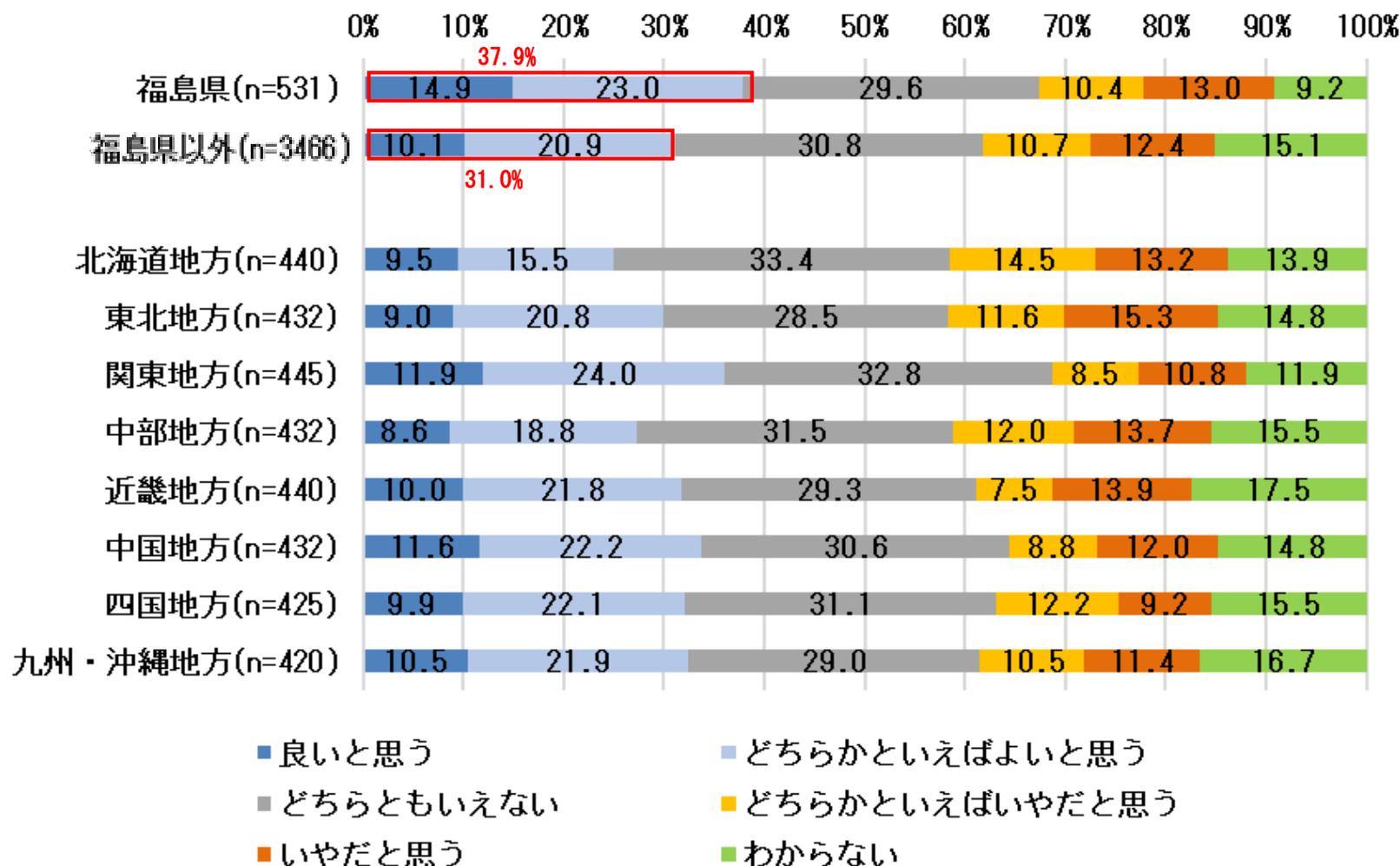
Q19 (新規) : Q18で「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」「聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった」と回答された方に質問です。何で情報を入手しましたか(複数回答)。

- ・全地域において、テレビ (NHK・民放) からの情報入手が多い。
- ・また、除去土壌の再生利用の情報入手方法 (Q4 (P9)) と比較すると、Q18に関する情報については、環境省ホームページからの入手も多い傾向が見られる。加えて、「環境省の広報資料」、「環境大臣ブログ」からの情報入手もなされている。



Q20（新規）：あなたは、自身のお住まいの自治体で再生土壌を使用した鉢植えを展示されても良いと思いますか、それともいやだと思いますか。

- ・「良いと思う」「どちらかといえばよいと思う」との回答は、福島県で37.9%、福島県以外で31.0%である。
- ・「どちらともいえない」との回答は、全地域において、約30%である。



Q 2 1 (新規) : 除去土壌の再生利用の理解を深めるために、環境省が実施すべきことは何だと思えますか (複数回答)。

・全地域において、「マスコミへの情報公開」の回答の割合が最も高い。また、「実証事業の公開見学」、「テレビCM」、「公開イベント」、「環境省HPの充実」が比較的多い。

